

## 懐かしい昭和の8ミリ映像を媒介にして、 高齢者福祉と地域社会づくりに挑む。

昭和初期から40年代までに撮影された8ミリフィルム。人々の生活をそのまま収めたこれらの映像を市民から集め、アーカイブ化する事業が宮城県で始まった。被災地の仮設住宅などで上映したところ大反響を呼んだほか、認知症防止や世代間コミュニケーションの拡大など地域社会の強化にも役立っている。

### 「なつかしい」と回想することは 認知症の予防にもなる。

平成も20余年が経過し「昭和」はひと昔前の記憶になるろうとしている。薄れ行く記憶の中には、当時の連綿と続いてきた伝統や生活様式も含まれている。こうした生活に密着した文化的資料を残すため、NPO法人20世紀アーカイブ仙台は、宮城県内で昭和時代に撮影された8ミリ

フィルムや写真を集め、アーカイブ化する事業を始めた。

同法人理事長の坂本英紀さんは

「当初は『うちにあるのは家族の映像だから歴史的価値はありません』と、なかなか集まりませんでした。家族の写真であれ、映像であれ、背景や服装などが昭和の時代のことを語っているのですが……」と語る。

転機となったのは2010年に発行した「クラシカルセンダ



2月13日 高砂1丁目公園仮設住宅での昔を語る会の様子  
NPO法人20世紀アーカイブ仙台では、市仮設住宅で上映会を開催した様子



上映会を告知するポスター



苗取り



昭和35年  
運動会

映像には昔の田植えや運動会などの様子などが収録されている



仙台市に開設した「映像ギャラリーなつかし屋」

イ」である。素人が撮影した仙台市内の写真集だが、それを見た人から「それならうちにもある」と、続々と映像や写真が集まってきた。

「当時8ミリといえればかなり高価なものでしたが、ごく普通の庶民生活を撮影しているものが意外と多いのです」

坂本さんたちは集まったフィルムを投影して、それをデジタルカメラで撮影するという地道な作業を続けた。

「どれもかなり劣化していますので、今、アーカイブしておかなければ失われていたと思います」と坂本さん。

映像データは見る人にあわせて再編集できる。被災地の仮設住宅で上映するために編集した作品では、田植えのシーンとともに「春の小川」が流れた。童謡や唱歌などのBGMが郷愁を誘う。運動会や遊園地、朝の登校シーンなど、映像は宮城県のものだが、一定以上の年齢層の人なら誰でも懐かしいと思える光景が続く。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」のドキュメンタリー版のようだ。

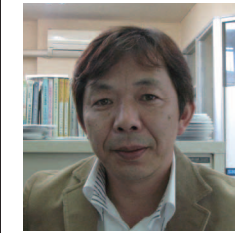
### 仮設住宅での映写会は 笑いと涙であふれた。

坂本さんらは宮城県各地の仮設住宅、老人医療施設や特別養護老人ホームなどに出向き、編集した映像の上映会を行っている。映像だけではなく、昭和初期のアイロンやくけ台などの日用道具も持参する。参加者たちからは口々に「懐かしいねえ」という声があがる。

「この人はゴム長履いてるから新しいね。あたしらの頃は脚絆だったよ」

「野良仕事で休憩することを『たばこ』って言ってたわ」などと感想や自身の体験談などが語られ、話の輪は急速に広がっていった。笑い声の中で、懐かしさのあまり目

### 担当者より



地域復興に貢献する  
意気込みで活動を  
続けていきます。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
理事長  
坂本英紀さん

AJOSCの助成でアンテナショップを1ヵ月間開設できたおかげで、私たちの活動に弾みをつけることができました。また、各地での上映会では本当にみなさんに喜んでいただきました。地域復興の下支えをするつもりで、これからも活動を続けます。これからもどうか温かな目で見守ってください。

に涙を浮かべる人もいます。東日本大震災で被災されている方の場合には思いも複雑だ。

20世紀アーカイブ仙台で理事を務める伊藤豊生さんは「高齢者が自分の記憶を鮮明に思い出すことは『回想』効果といって、認知症の進行を遅らせ、精神的な安定を図ることができます。仮設住宅で暮らしている皆さんに有効だと考え方をに入れて訪問しています」と語る。

また、上映会などの集まりを通じて、お手玉遊びなどの昔の遊びや、わらべ歌、昔話などを教えてくれる高齢者も現れている。今度はそれを映像化して子どもたちに見せたり、交流の場を作ったりすることができる。

2011年9月1日～30日には、AJOSCの助成を受けて仙台市内にある榎ヶ岡みやぎNPOプラザに、昭和時代のセンダイ「映像ギャラリーなつかし屋」を開設した。

市井に埋もれている素材を収集するのが目的だったが、1ヵ月間の間に多数の素材が集まるとともに、活動のPRを行うことに成功した。

「震災で地域社会の大切さを日本人は思い知りました。私たちの活動は、地域間や世代間の対話を活発化させ、地域ネットワークを強化する意味でも有効だと考えています」と坂本さん。

「懐かしい」という気持ちには、人を結束させる力もあるようだ。仙台だけでなく、日本のどこの地域でも活用できるプロジェクトだといえそうだ。